

# ほ ど 教育センター通信

## 火床の火の心を紡ぐ

第3号（通算75号）  
令和2年6月22日  
三条市小中一貫教育推進課  
教育センター 発行



小刀学習  
竹とんぼづくり

ただの郷学園  
森町小

### 様々な状況を生き抜いていくために…

統括指導主事 武井 正明

三条市では4月から「三条市立学校の教育職員の勤務時間の上限に関する方針」の全面実施としました。それにともない、学校が緊急連絡を受けられない状況にある場合、教育委員会の専用携帯電話に電話で保護者からの緊急連絡を受けられるよう環境を整えました。少しでも学校の負担軽減につながれば幸いです。

一般、市内全校から令和元年度後期の働き方改革の取組状況を提出していただきました。その記述から、普段の学校生活の中で、できる限り時間の効率化を図り、ゆとりの時間を絞り出そうと工夫されている様子が伝わってきます。

その中で「新型コロナウイルス感染症の影響で卒業式練習の回数を減らしたがうまくいったので、今年度も練習回数を減らしてもよいことが分かった。」というものがありました。突然の臨時休業という事態に直面し、練習時間が取れず、うまくいか非常に心配な状態で卒業式を迎えた学校ばかりであったと推察します。しかし、それは杞憂でした。私が参加させていただいた小学校の卒業式も、実に素晴らしいものでした。卒業生はもちろんのこと、初参加の1年生の態度も立派でした。列席したすべての人たちの思いが凝縮されて、会場は大きな感動と温かい涙に包まれていました。

これからの教育は、今までの経験値では対応しきれない状況でも、挫けずに逞しく、進むべき道を切り拓いていける人間形成をめざしていくことが重要になります。いつ何時また不測の事態がやってくるかわかりません。時間や場所など、様々な制約があっても、発想豊かに生き抜いていける力を育成するために、ともに頑張りましょう。

## 「授業スタンダード」Q&A

「授業スタンダード支援訪問」等で、授業スタンダードの活用や評価の仕方について質問をいただきました。主な質問と回答をまとめましたので、参考にいただければと思います。

**Q1** スタート・ラーニングは、全教科で行わなければなりませんか。

**A1** 本年度三条市重点教科の算数・数学、英語（外国語）では努めて行いましょう。他の教科等では、可能な範囲で取り組みながら、少しずつ広げられるとよいです。

**Q2** 教科や題材等によっては、「学習問題◎」を毎時間設定することは難しいと感じています。これについてどのように考えて実践や評価をしたらよいでしょうか。

**A2** 「学習問題◎」は、子どもが自発的に問題提起して設定される場合だけでなく、教師が発問したことを子どもが問題意識をもって受け入れて設定される場合もあります。後者が基本であり、後者の積み重ねによって前者が生まれ得ると考えられます。また、教科や題材等によっては、例えば3時間程度のまとまりで「学習問題◎」が学級で設定されることが考えられます。その場合においても、児童生徒の問題意識が継続しているのであれば、毎時間「学習問題◎」を設定することができていると捉えられます。「学習問題◎」が同じ内容であっても、毎時間それを板書して可視化し共有することが大切です。

**Q3** 「対話的な学び」を実現するために、子ども同士の交流は、これまでと全く同じようにはできないと思います。どのように行ったらよいでしょうか。

**A3** グループ内交流のように密接な状況に近くなる場合は、マスクを着用し距離をとり、あまり時間をかけずに行うことに留意していただければと思います。対話の目的は、「そういう考えもあるのか」と考えを広げたり、「そういうことか」「わけや仕組みがわかった」と考えを深めたりすることです。そのような目的を達成するための方法を工夫していただければと思います。例えば、各自が考えを書いたワークシートやノートを机の上に置き、自由に見て回り、必要に応じて質問や相談をするような自由交流の場を短時間設けたり、教科書等を調べて考え方に触れたりすることが考えられます。「対話的な学び」の実現は、直接対話だけでなく子ども同士の交流を工夫することで可能となります。

**Q4** 小学校（前期課程）では、各自の実践状況の評価は、全教科が対象でしょうか。評価をする上で、細かく記録をとる必要はあるのでしょうか。

**A4** 本年度はひとまず、学校の重点教科や自身の研究教科に焦点付けて行っていただいでよいです。厳密さは問いませんが、自分なりに必要な記録（メモ）をとっておくことは、何事も自身の実践を振り返る上で大切なことです。

**Q5** 実践状況の評価は、ポイントごとに分けられていますが、「学習問題◎」と「まとめ」が関連していることを考えると、関連付けて評価しなくてよいのでしょうか。

**A5** まずはポイントごとに分析的に評価しましょう。関連付けて振り返って上手くいったことや上手くいかなかったことは、自由記述欄に記すと今後の参考になります。

「授業スタンダード」に基づいた本年度の実践状況の評価は、臨時休業による様々な対応を考慮し、1回目は10月下旬に、2回目は2月下旬に変更して行います。集計や報告の仕方等については、三教一貫号外「授業スタンダード」に基づいた本年度の実践状況の評価について（令和2年6月9日）で御確認ください。

